

平成28年度学校評価

兵庫県立播磨農業高等学校

学校教育目標

- 1 農業教育を中心としたあらゆる教育活動をとおして、志を持ち、たくましく生きる力と夢にチャレンジする態度と豊かな心を育む。
- 2 いのちあるものを育て、汗と土にまみれる体験を重視した教育活動をとおして、人権感覚、責任感、勤労観、職業観を育む。
- 3 農業の生産・経営に関する基礎的知識・技術の習得及びその応用的・実践的能力と態度を育む。
- 4 寄宿舎教育をとおして、自律心、協調性、責任感を育む。

学校経営の重点

- 1 農業経営者育成の推進
- 2 自主性・実践力の育成
- 3 情操の涵養・たくましく生きる力の育成
- 4 保護者・地域社会・農業関係機関等との連携
- 5 安全教育の推進
- 6 環境の整備

学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 過去の学校評価での意見を受けて、対応した事例もあげながら実施してはどうか。
- 保護者アンケートの回収率を上げるためにもPTAと連携して欲しい。
- 項目別に自由記述欄を設けるなどして、具体的な生徒や保護者の声を吸い上げられる工夫をしてもらいたい。

総合的な学校関係者評価

- 保護者アンケート提出率向上は評価できるが、学年が上がるごとに提出率が低くなっている。全学年に行き届くような工夫が必要である。
- このままで良いと思います。学校全体の雰囲気が良く、生徒たちは伸びのびと勉学に実習に頑張っているのではないかと感じます。PTAの活動をもう少し充実したものにできるようにお願いしたい。
- 多くのことに生徒、教職員が取り組んで充実した学校生活が送れている。

自己評価結果（A：達成している B：おおむね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況(上段)・改善の方策(下段)	学校関係者評価評価委員会意見
学校運営全般	学校の教育目標達成に向け、協働意識の高揚とPDCAサイクルの定着を図る。 学校ホームページ等様々な広報活動をとおして、学校理解を深める活動を展開するとともに地域との連携・共生に意欲的に取り組む。	B	年度当初、分掌ごとに重点目標及び実践項目・内容を計画し、年度途中での中間評価、年度末の成果をまとめ、残された課題を明確化し、教職員間での共通理解を図った。学校ホームページでは、授業の様子や学校行事等、特に農業高校として特色ある教育活動や地域との連携事業の取組内容の掲載更新に努め、家庭や地域に向けた情報発信を常に行っている。 生徒に、播磨農業高校の魅力、農業教育の素晴らしさを再認識させ、学校教育活動への目的意識を高め、諸活動に主体的に取り組ませる。その活動内容を学校ホームページや学校紹介などを積極的に活用し、家庭・地域に発信するとともに地域と連携した学校行事を推進していく。	■ホームページのブログは素早く更新され、学校の様子がよく見え素晴らしいと思います。それ以外の学校紹介の方法がないのか、地域のご年配の方々にもスピーディーに広報できる方法を検討いただければと思います。 ■学校運営全般については、保護者が概ね満足しており評価できる。生徒については、様々な活躍が報道されており外部からは良くやっていると思える。一方で生徒の三分の一程度が、あまり評価していないのが気になる。 ■教育目標達成に向け、先生方は一丸となって取組んでおられるように思います。
生徒指導	生徒の理解に基づき、教職員全員が生徒一人ひとりを伸ばす生徒指導を展開する。 基本的な生活習慣や規範意識を定着させ、自他ともに大切に学校生活に取り組ませる。	B	生徒の現状に応じて生徒指導規定の見直しに取り組めた。生徒理解を深めるための取組として学校生活アンケートを年間3回実施して、毎回集計・分析をした結果をもとに、研修を深めた。また全教職員による全生徒を個人面談する取組を年間8日間実施し、多面的な生徒理解に努めた。そして、「高校生心のサポートシステム事業」の一環として、生徒向けにはワークショップ形式の講演会を学年別に、職員向けには生徒の内面理解を深める技法についての研修会を実施した。その他にスクールカウンセラーや外部講師を招聘し、学級経営や生徒の事例研究などを通じて、教員の資質向上を図った。 生命の尊重を第一に、各生徒の個性を伸ばしながら、相手の立場に立った思考が出来る思いやりある人材の育成に努める。また、職員間の共通理解やさらなる資質の向上に努め、生徒への内面理解を深めながら、社会性(挨拶、清掃、礼儀、規範意識など)が定着するよう、継続的に取り組む。さらに、本校における生徒指導の方針を保護者と教員間で積極的に共通理解を図りながら、学校と家庭での連携をさらに深化させる。	■校内で出会う生徒はいつも大きな声で挨拶をしてくれます。今後も自然と挨拶ができるような人材の育成に努めていただきたい。 ■近年、髪の毛の色が少し目立ってきているように感じます。教職員間の指導体制や意思統一を図っていただきたい。 ■生徒自身は友達に恵まれ、学校生活を楽しんでいるようなので、この状態を続けてもらいたい。 ■学校、先生方は生徒一人ひとりの個性を引き出し伸ばすための研修・講演会等を熱心に取組んでいただいている。
学習指導	教材の精選と指導の工夫を行い、生徒の個に応じた教育の充実を図る。 新教育課程に向けた実施計画を進める。	B	2年次、3年次に開講している選択授業では、他科選択を含め実習を中心とした授業と座学を中心とした授業を入れているが、生徒の評価がBになっている要因として第一希望が必ずしも叶えられないこと、自分の進路に直結して選択できていない面があるかと思われる。また、授業に集中していない、あまり集中できていない、あまり集中できていない割合が20パーセント近い数字が出ている要因も授業と進路が結びつけて考えていない、あるいは興味をもてないまま授業を受けていることも挙げられ、進路目標を具体的に持つことで、それに向けて身につける知識等の重要性を意識させ、それが充実した学習に繋げていけるように指導していくことが大切である。また、昨今教育現場で話題となっているアクティブラーニングの手法も含めて教師側も授業のあり方を研究する必要がある。単におもしろかったで終わる授業ではなく、生徒の興味関心を引き立て、能動的に参加する授業を作るための手法や教材の選別、また進路実現に必要な知識の習得など各授業で求められることを理解し、授業改善をしていく必要がある。	■生徒への授業アンケートの実施は評価できる。その結果を踏まえて、全体の学習レベルの底上げができるようにカリキュラムや授業改善に向けて努力してほしい。 ■様々な制約もあると思うが、出来るだけ生徒が興味を示すようなカリキュラムを工夫していただきたい。 ■先生方は生徒一人ひとりの個性や能力に応じた授業の充実を図るべく努力して下さっているのが良く分かります。今後も、個々の進路に合った授業をしていただくことをお願いします。
進路指導	個に応じた進路実現に向け、情報の提供・相談体制を作る。 キャリア教育の推進を図り、職業観・勤労観を育成する。	B	教育活動全般をとおして、キャリア教育の推進を図った。3年生に対しては多様な希望を持つ生徒の進路実現のために、進路ガイダンスを8月までに集中して実施し、ハロワークとも連携を図った。また、農業分野への積極的な求人活動を実施し生徒の希望する職種の開拓に努めた。1・2年生に対しては進路意識の向上と、農業分野への関心を高めるため、積極的にインターンシップに参加させると共に、大学出張授業や進路ガイダンスの充実を図り農業系の進路を選択する生徒を増やすために、各学年の進路指導計画に加えて、個別指導の更なる充実を図る必要がある。非農家の生徒がほとんどのため、卒業後速自営は困難である。そのため、農家や農業法人への就職等も積極的に奨励して行く必要がある。また、大学や大専校進学後の就職への道筋をつける必要がある。	■農業系の進路が増えたことは大変素晴らしい。今後も、農業の大切さを指導いただき、日本の進んでいく未来像も見据えた進路指導をお願いします。 ■進学者の割合が多いのは望ましいが、農業の専門知識を有しているのに、それを生かせない就職先は残念に思います。今後とも農業関係への進路へ導けるよう努力してもらいたい。 ■生徒の希望に合った進路実現を目指し努力、奮闘下さっているようですが、生徒の方がフリーターでも良いと思うなど、積極的に進路、就職にしっかり向き合っていない感じがする。 ■現状の地域農業の問題点などを地域の方々と話し合い、意見交換し、新しい農業の形を考えさせる指導もしていただけたらと思います。 ■農業教育の様々な取組みに評価できる。特に資格取得については、生徒の卒業後の進路先にも大きく影響を与えるだけでなく一生の財産となるものである。今後も一層取組みを向上させてもらいたい。 ■野菜、草花、家畜の飼育を通して、収穫の喜び、命の尊さ、人間らしさ等々良い経験をしていると思います。
農業教育	農業教育をとおし、生命を尊重する心と安全第一を優先とする意識を向上させる。 各種資格・検定試験や各種大会等に参加、挑戦させることにより、生徒一人ひとりの能力を高め、自信を持たせることにより、進路実現につなげる。	A	毎時間、「農業実習の心得」を全員で読み上げ、安全を最優先にする意識の向上に努めた。また、毎日の栽培飼育管理や解体(鶏・豚枝肉)実習、畜魂祭や収穫感謝祭などを通して、「命と心と仲間を大切に」精神を育んだ。年度当初に各種資格・検定試験の一覧表を配布し、事前指導を行うなど積極的に受験を促したことで試験に合格し満足感や達成感を得られた。 特色を生かした教育活動を展開し、地域連携事業を積極的に行っているが、一部の生徒が参加するだけになっている。今後、全員が参加できるように働きかけと、事前指導を丁寧に行い、実習を通して生徒が地域に貢献する意識を高められるような指導を行う。	■農参観をもう一回追加して年間2回にしたり、保護者に向けたアンケートを実施する等によって、さらに開かれた農参観をしていただければと思います。 ■女子生徒の増加に伴う整備を計画的に進めてほしい。 ■農参観は生徒が思い通りいかないうようなコメントが気になります。生徒が少しでも快適に過ごせるよう努めてもらいたい。 ■農参観、その保護者の方もしっかりと農参観を理解され、協力的である様子が嬉しく思います。農参観は規律も厳しく窮屈で不自由な生活だと思えます。しかし、将来必ず活かされると思えますので、信念を持ちこれからも指導をお願いします。
特別活動	本校の教育活動で体得したものを、勤労やボランティア活動(障がい者支援、環境保全)等で実践させる。 地域との連携を深め、交流活動を通して社会性や集団参加の意識を高める。	B	公募による呼びかけでボランティアに多くの生徒が参加した。地域からの要請も増えた。地域と連携した交流活動を通して豊かな人間性を培う。また、本校の特色を活かした環境美化活動やフラワーキャンペーンに努めた。 勤労体験やボランティア活動への参加をさらに増やした。ボランティア活動を通して奉仕の精神を養うとともに地域との交流に努めた。フラワーキャンペーンを通して栽培した花を配布することで、地域に貢献する意識を高めた。	■市内、寮生以外の生徒や、意識の低い生徒への参加促進をお願いします。 ■ボランティア活動などの取組みは、社会とつながる良い機会となり、今後も重要視されると思われる。 ■市内の花壇、施設での花植え、老人会の花苗配布など、地域のために多大なる貢献をされており、大変評価しています。
寄宿舎教育	寮の日課を確実に果たし、規律ある寮生活の中で自律性・協調性・責任感などの能力を体得させる。 異年齢集団の構築・成熟をめざし、相互の人間関係の深化を図るとともに、玉丘寮に誇りを持たせ、自己の役割を果たさせる。	A	寮訓「誠和・自律・礼儀」を規範として、その実践に努めた。月に一度の寮運営委員会を実施し、生徒主体の寮運営となるよう心掛けた。その結果、様々な行事において生徒の主体的な活動が見られ、活気ある寮教育の実践につながった。生活指導では、寮則違反の段階指導を行うことで寮生の規範意識を高められた。さらに、一年生の入寮継続者を対象に入寮面談を実施したことで、保護者からの協力体制が築かれ、寮教育への理解が深められた。寮務部の教員が全員入れ替わり、指導方針が変わったことによる反発は多少なりとも評価を下げた一因であると考え。一方で寮運営委員会を軸として、寮行事は主体的に実施出来た。しかし、寮役員による日々の組織的な生活指導は十分でない所もある。教員のきめ細やかなサポートにより、寮生一人一人が自分の役割を果たし、玉丘寮に誇りを持って行くように粘り強く指導していく。	■寮参観をもう一回追加して年間2回にしたり、保護者に向けたアンケートを実施する等によって、さらに開かれた寮運営をしていただければと思います。 ■女子生徒の増加に伴う整備を計画的に進めてほしい。 ■寮運営は生徒が思い通りいかないうようなコメントが気になります。生徒が少しでも快適に過ごせるよう努めてもらいたい。 ■寮参観、その保護者の方もしっかりと寮運営を理解され、協力的である様子が嬉しく思います。寮生活は規律も厳しく窮屈で不自由な生活だと思えます。しかし、将来必ず活かされると思えますので、信念を持ちこれからも指導をお願いします。